

【巻頭言】

社会問題の解決を志向した総合大学としての研究

地域総合研究所長 浅野英一

摂南大学建学の精神は、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けされた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」です。本学のタグライン **Smart and Human** は、知性と人間性を結びつけるという本学の理念を表明するものです。SETSUDAI VISION 2025 では、持続可能な人類社会の実現に向けて、社会に生じる諸問題の解決を志向した研究を行うことを謳っています。総合大学の強みを生かした広範な分野の研究に加え、文理の枠を越えた学際的でイノベーティブな研究活動を推進し研究活動による成果を知的基盤として地域貢献に役立てていくこと目標とします。大学は、蓄積された知的資源を広く社会に提供していく役割があります。そして、地域や社会の知の拠点として、住民の生涯学習や多種多様な主体の活動を支えると同時に、地域や社会の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値の創造への積極的な貢献が求められています。こうした取組を継続して行うことで、大学が地域等に支えられる機関として確固たる地位を築くことにつながっていくと考えられます。2020年4月には、枚方キャンパスに農学部が設置されます。まさに幅広い総合大学の利点を生かした研究・教育、産官学・地域との連携、探究心ある自律した人材の育成により、国境を跨ぐ課題の解決につながる役割を果たす時になってきました。

摂南大学地域総合研究所報は、2016年2月に創刊され現在に至っています。近年は、大学を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、大学に対する社会からの期待はますます大きくなるとともに、社会や学生のニーズも多様化し、少子高齢化が進展し人口が減少局面を迎えています。大学内に存在する各学部・各大学院・各センターの知的財産を、横断的かつ包括的に機能させることにより、地域課題解決へ責任ある参加と地域創造支援の役割を果たすことが可能となります。**Smart and Human** 研究助成金は、地域と世界の知的循環の上に立ち、**Smart and Human** の方向に合致する研究を奨励することをもって、摂南大学の教育・研究・社会貢献の向上発展に寄与することを目的とします。研究課題は地域社会に資する研究（例：環境問題、エネルギー、医療・福祉、社会問題、文化・教育、少子高齢化、産業、防災等）で、採択された研究課題については、摂南大学全体の取組として地域総合研究所が管轄し、研究活動報告および自己点検・評価書の提出を求めています。2019年度からの学園規定改正により、研究論文および研究ノートに対しては査読を実施し、地域総合研究所報を紀要レベルに格上げする予定になっています。